

重点目標	自分の思いや考えを伝え合う姿を目指した授業づくりの推進		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師との関わりや会話を楽しんでいるが、自分の思いや考えを十分かつ的確に伝えることに課題があり、その課題解決に向けて各学部経営の努力事項に挙げられている。 ・本校教育目標の達成に向け、かつ地域資源を活用した「横手が舞台」や読書活動推進計画を踏まえ、言語能力を発揮した姿を目指す。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「横手のスタンダード」を活用し、自分の思いや考えを伝え合う各教科等を合わせた指導の授業づくりをする。 ・言語環境を整備した授業実践をする。（発問や板書、掲示物、ワークシート等の工夫） 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に全校授業研究会や学部授業研究会に向けた単元検討会の実施及び要点リストの活用。（「横手のスタンダード」の授業設計） ・全校授業研究会、学部授業研究会の実施。（「横手のスタンダード」の授業実践） ・言語環境の整備に関する情報提供や情報交換、アンケート等の実施。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に限らず、授業研究会に向けた単元検討会を実施し、単元構成や単元のつながり、取り扱う教科等の確認などを行った。 ・授業検討会を重ねて学部授業研究会及び全校授業研究会をそれぞれ各学部で1回ずつ実施した。全校授業研究会実施後は、授業研究会の協議会で話し合った改善案を基に、改善授業を行い、授業改善を図った。 ・教職員対象に、言語能力の育成のために、授業等で取り組んでいることや意識していることについてのアンケートを実施した。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・提示授業に対して単元検討会を実施した。授業研究会では、伝え合うための具体的な場面設定やポイントを絞った教師の言葉掛けなどが整理され、主体的な伝え合う姿を引き出す授業づくりができた。 ・アンケート結果から、学校全体として日々の授業の中で言語の環境を意識して取り組んでいることが明らかになった。 		
自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・単元検討会や授業研究会、言語能力の育成に関する研修会の実施から、伝え合う姿を目指すための具体的な支援が検討された。各学部で提示した全校授業研究会の協議会、日々の授業実践からも言語能力育成に対する意識が高まり、全職員の研究への参画が見られた。 	C

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none">・生徒同士の関係を見ていると、研究成果が出ていると思う。・現状に基づいて目標が立てられ、学校全体としても言語能力育成への関心を高めて、相手に思いを伝えることへの意識が高められた。・学校として目指す方向をしっかりと見据えた学習指導の計画、取組を行っていて、保護者の方々のアンケートは高く評価されている中でも、先生方が満足することなく工夫、振り返りをしながら、前向きな指導をしておられる様子が感じられた。高く評価したいと思う。・1年次の昨年度は、国語に焦点をあてた授業づくりの研究を行い、2年次の今年度は各教科等を合わせた指導の授業実践に取り組んできた。目標を達成するための方策や具体的な取組がよく検討されており、言語能力の育成に対する全職員の意識が向上したことは、その成果であると評価できる。・具体的な目標の達成のため、国語科の授業で実践した「聞く・話す」のルールを各教科等でも取り入れて課題解決に向けて取り組み、言語能力の育成に対する意識が高まるなど、目標を達成している。	C
------------	---------------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・今年度の成果と課題を中心とした研究のまとめである研究紀要は、常時閲覧できるように配付し、言語能力の育成に向けた取組や授業設計に関する成果と課題を今後の授業づくりに生かしていく。 ・授業設計や授業改善に関するシステムを整理し、共通理解のもと、研究推進を図る。 ・「聞く・話す」ためのポイントを継続し、今年度培った「伝え合う力」を土台とした次年度の研究推進を検討する。	A
-----------------------	---	---

評価領域

進路指導

重点目標	キャリア教育全体計画やキャリアノート等を活用し、小・中・高で連続性のあるキャリア教育を実施し、生徒が希望する進路の実現につなげる。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各学部でそれぞれキャリアノートや進路学習内容表などを活用しているが、学部間のつながりが見えにくい。 中学部生徒は卒業後、本校高等部への進学を希望している。 高等部卒業時に進路が決まらず、卒業後に実習を行ったり、関係機関につないで、福祉サービスの利用先を探してる卒業生もいる。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 学部間のつながりのあるキャリアノートの様式や活用方法などを教務部と連携しながら検討し、次年度から運用できるようにする。 中学部、高等部生徒が希望する進路先への移行率100%を目指す。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 教務部と進路指導部でキャリアノートについて検討する機会を設定し、現在の活用状況の確認と、学部間のつながりの見える様式について検討する機会を設定する。 希望する進路の実現に向けて、昨年度の「職域拡大・職場定着促進事業」の取組を生かして進路指導や職場実習などを設定する。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 教務部とキャリアノートについて全校共通で「プロフィールシート」を作成すること、中・高共通で「なりたい自分シート」作成することなどを検討した。その他の内容についても煩雑にならないように整理をした。 昨年度の事業で開拓した企業での実習を実施したり、事務的な作業を校内実習で設定したりした。また、卒業生が働いている事業所の見学をしたり、高等部の実習中に生徒が実習している事業所を中学部生徒が見学したりして、卒業後の生活をよりイメージできるようにした。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> キャリアノートは教務部が中心となり、新しい様式や作成手順などを作成し、次年度からの活用に向けて準備をしている。 1月末の時点で高等部3年生8名のうち、5名が進路先について内諾という状況。2名が2月中に実習や体験を予定している。1名は進路先について本人・保護者が検討中という状況である。 		
自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリアノートについては、教務部と連携し次年度からの活用に向けて準備が進んでいる。 希望する進路の実現に向けては、それぞれ方向性は見えているもののまだ全員の決定には至っていない。 	C

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) <ul style="list-style-type: none">・ 厳しい現状の中、頑張っていると思う。子どもたちのため、更に健闘してほしい。・ 将来の進路について、生徒一人一人のシートを作成し、生徒自身が考える自分の未来像を考えさせ、具体的なアプローチを模索し、実践している。・ 卒業して企業や事業所で仕事や生活する基本は、話すこと、聞くこと、見ることから成り立つことと思うが、これらの要素が学校生活の間にきめ細かな取組として指導されていると感じる。アンケートにもあったが、担当の先生の評価がとても高く、保護者が安心して学校に送り出せていることが大きな評価となる。学校の方針を先生方がしっかりと実行されていると思った。・ 生徒全員が希望する進路の実現を図ることができるよう、残された時間、頑張してほしい。昨年度の事業のねらいの一つに離職率の減少があると思うので、そのための方策が重点に示されていれば、なおよかったと思う。・ キャリアノートは作成手順をマニュアル化するなど、活用に向け着実に取り組まれており、概ね目標を達成している。・ 希望する進路先への移行率100%については、企業をはじめ、周辺の理解が不可欠だが、引き続き目標達成に向けてご尽力いただきたい。	C
------------	---------------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・ キャリアノートは教務部が中心となって来年度からの活用に向けて整理している。年度初めには説明会を実施し、一年間使いながら改善をしてきたい。 ・ 進路希望の実現に向けては、面談や進路希望調査などを基にして、職場見学や実習を実施しマッチングを図り、ミスマッチによる離職のないようにする。また、卒業前に進路先が決定しているように計画的に相談や面接の設定などを進めていきたい。また卒業後も卒業後支援を関係機関と連携して行い、定着に努めていきたい。	A
-----------------------	---	---